

# 佐賀大学でのシングルサインオン活用事例

総合情報基盤センター 大谷 誠

総合情報基盤センター 江藤 博文

## 1. はじめに

大学において教育研究をおこなう際に、もはや情報基盤システムはなくてはならないものとなっています。佐賀大学においても、教務システム・図書館システム・グループウェアなど、様々な情報基盤システムが運用されています。これらの情報基盤システムの多くは、利用者の PC がどのような環境であっても利用できるように、Web ブラウザを用いてアクセスできるようなシステムになっています。

Web ブラウザを用いてアクセスするため、ネットワークに繋がった PC さえあればどこからでも利用が可能ですが、誰がアクセスしているのかを特定するために「認証」という作業が必要となります。また、様々な情報基盤システムが運用されているため、それぞれのシステムを個々の利用者が使いやすいように、情報をまとめたポータルサイトを運営する場合があります。このポータルサイトにおいても、個々の利用者に応じた情報を提供するために「認証」をおこなう必要があります。

利用者の「認証」には、ユーザ名とパスワードを入力する方法が広く用いられており、佐賀大学においてもこの方法を用いています。このユーザ名とパスワードが、システムごとに異なると不便です。そこで、統一したユーザ名とパスワードでシステムが利用できるような利用者情報を集中的に管理する統合認証システムが佐賀大学を初め多くの大学で構築されています。

しかしながら、ユーザ名とパスワードが統一されていても、それぞれのシステムで毎回認証するようであれば、利用時に手間も掛かり不便です。この問題を解決する一つの方法として、利用者の認証を一度で済ませる「シングルサインオン」という認証方法があります。シングルサインで連携したシステム間では、初めに利用するシステムで認証を行うだけで、他のシステムでは再度認証をおこなう必要がなく、シームレスに複数のシステムを利用することが可能となります。

シングルサインオンを実現する方法はいろいろなものがありますが、その中の一つとして、**Shibboleth** と呼ばれる方法が注目されています。**Shibboleth** を用いることによって、学内で運営している情報基盤システムの間だけではなく、他の大学や組織が運営するシステムや、**Springer** などの電子ジャーナルも、シングルサインオンによってシームレスに利用することができるようになります。

2010年3月に運用を開始した佐賀大学の情報基盤システムは、この**Shibboleth**によるシングルサインオン認証に全面的に対応しています。本稿では、シングルサインオンに対応した学内のシステムについて紹介したいと思います。

## 2. シングルサインオンに対応した情報基盤システム

佐賀大学では、2010年3月のシステムの更新によって、情報基盤システムの多くが Shibboleth によるシングルサインオン認証に対応しています。Shibboleth では各システムにログインする際に統一したログイン画面(図 1)を利用します。この画面でユーザ名とパスワードを入力することによって各システムの利用が可能となります。

この章では、どのようなシステムがシングルサインオンに対応しているのか紹介いたします。

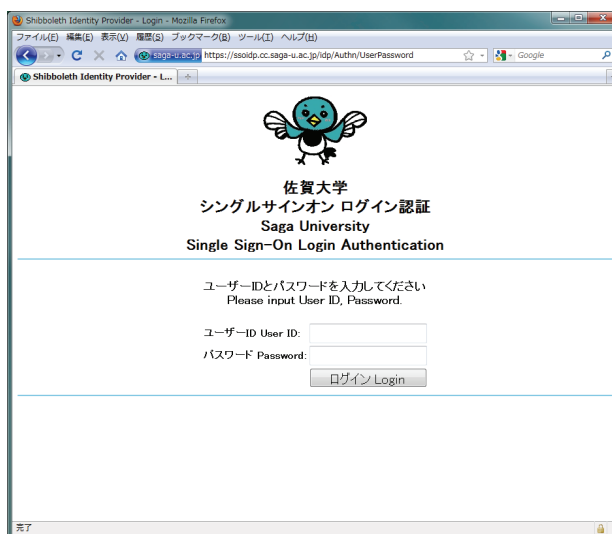


図 1: シングルサイン オンログイン認証ページ

### 2.1. 総合情報基盤センターホームページ

総合情報基盤センターのホームページ(図 3)は、認証せずに表示することは可能ですが、シングルサインオン認証に対応しています。認証(ログイン)することによって、利用者に関する情報やリンクが表示するようになっており、他のシステムに対するポータルサイトの役割も果たしています。

ホームページの右上に利用者の名前が表示されている場合は、シングルサインオンが完了しています。「ようこそゲストさん」と表示されている場合はログインしていません。この場合は「LOGIN」と書かれたアイコン(図 2)をクリックしてユーザ ID とパスワードを入力してください。

ログインすることによって、学生・教職員などそれぞれの所属に合わせた情報やリンクが表示されるようになります。よって、佐賀大学の関係者は、ログインした状態でご利用ください。



図 3: 総合情報基盤センター ホームページ



図 2: ログインアイコン

## 2.2. 附属図書館ポータル (MY Library)

附属図書館のポータルサイト(図 4)もシングルサインオンに対応しています。このポータルサイトでは、シングルサインオンによるログイン後に、自分の借りた本の貸し出し状況や、借りたい本の予約状況を確認することができます。また、図書館施設(学習室)の予約などをおこなったり、本の貸し出しランキングを閲覧したりすることもできます。とても便利なサービスですので、是非ご活用ください。

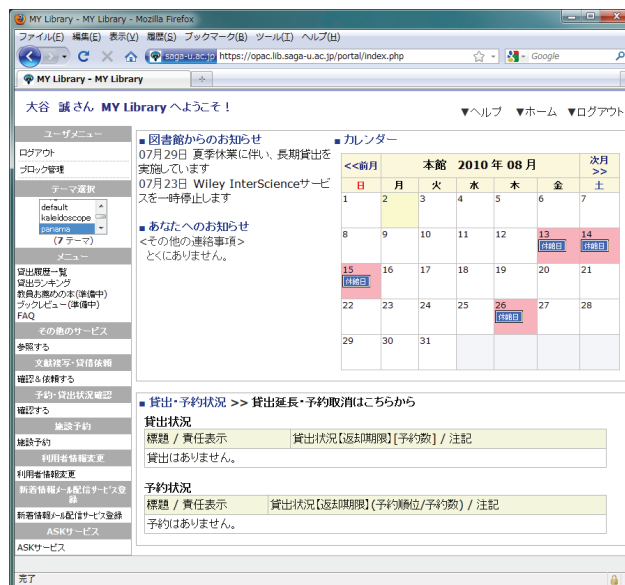


図 4: 附属図書館ポータル

### 2.3. LiveCampus ポータル(教務システムポータルサイト)

教務システムとしてこれまで利用されてきた LiveCampus ですが、このシステムも 2010年7月よりシングルサインオンに対応しました。この対応に合わせて、LiveCampus の利用を、より便利とする LiveCampus ポータル(図 5)の運用が新たに開始しました。このポータルサイトでは、教員が授業に関する連絡をおこなったり、個別の学生に連絡をおこなったりすることができます。その他に、レポートを提出してもらおう機能や、授業の内容について意見交換を行うことが可能なフォーラムといった機能も備わっています。もちろんこのポータルから、従来の機能である教務システムである LiveCampus(図 6) も利用でき、シラバスの確認や成績確認、履修登録などが可能です。



図 5: LiveCampus ポータル



図 6: LiveCampus 教務システム

## 2.4. ネットワーク利用者認証システム Opengate

佐賀大学では、持ち込みの PC などを学内のネットワークに接続して利用する場合、ネットワーク利用者認証システムである Opengate によって認証を行う必要があります。この Opengate も 2010 年 3 月よりシングルサインオン認証に対応しています。持ち込みの PC をネットワークに接続する際は、まず始めにこの Opengate により認証することになりますので、ネットワークの利用が可能となった時点ですでにシングルサイン認証が完了しています。よって、Opengate によってネットワークが使えるようになっていれば、他のシングルサインオン認証システムではパスワードの入力が不要になります。

この Opengate では認証終了後に、利用許可ページ(図 7)を表示するとともに、利用者の所属や利用場所に応じたポータルサイトを表示するようになっています(総合情報基盤センターポータルサイト、附属図書館ポータルなど)。Web ブラウザの設定によっては、ポータルサイトの表示がブロックされている場合があります。その際は、この設定を解除するか、利用許可ページに表示されている「ポータルサイトの表示」ボタンを押すとポータルサイトが表示されます。間違えてポータルサイトを消してしまった場合などもこのボタンを活用ください。

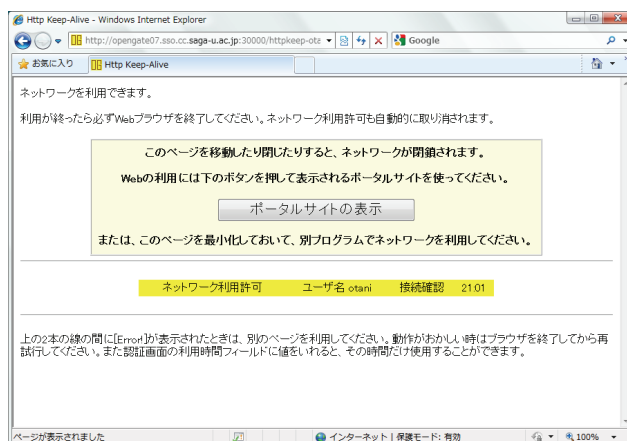


図 7: Opengate の利用許可ページ

## 2.5. グループウェア

教職員が利用するグループウェア(図 8)も、今年度から新たなシステムに替わり、シングルサインオン認証に対応しています。このグループウェアでは、主に個人や所属部局のスケジュール管理を行うことが可能です。そのほかに、会議室などの学内施設の予約などを行うことも可能です。その他に掲示板なども準備されていますので、部局単位などでの情報交換や、資料の掲示などを行うことも可能なシステムとなっています。

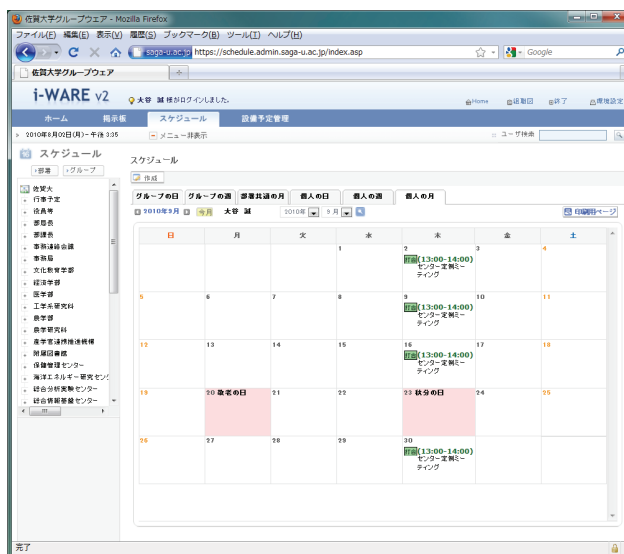


図 8: グループウェア

## 2.6. その他

詳しくは取り上げませんが、この他に教員が研究業績を入力する「**研究業績データベース**」や、評価情報を入力する「**評価基礎情報データシステム**」、利用者のパスワードの変更などを行う「**利用者情報の確認・変更**」ページなどもそれぞれ、シングルサインオン認証に対応しています。

Shibboleth では、学内のシステムだけでなく連携する学外のシステムにおいてもシングルサインオン認証を行うことができます。佐賀大学からは現在、学外のシステムとして、電子ジャーナルである Springer や、論文検索が可能な CiNii を利用することができます。シングルサインオン認証を行えば、学外からもこれらを利用することが可能ですので是非ご活用ください。

また、2010 年度後期からは本庄・鍋島キャンパスにて運用されている「**e ラーニング**」のシステムもシングルサインオン認証に対応予定です。その他にも、総合情報基盤センターが運用している「**Web メールシステム**」のシングルサインオン対応も現在進めています。

## 3. 最後に

先に述べたように、佐賀大学では多くの Web を用いた情報基盤システムが運用され、その多くがすでにシングルサインオンに対応しています。このシングルサインオン認証によって、皆さんのシステムの利便性が向上していれば幸いです。今後、まだ対応していないシステムも順次シングルサインオンに対応していく予定です。